

公認会計士試験合格

在学生5人卒業生14人。旧司法試験卒業生1人が突破

2007年度公認会計士試験の合格者が、11月19日に公認会計士・監査審査会から発表され、本学から19人(前年度10人)が合格した。うち在学生は3年次生3人、4年次生2人の5人(12月6日現在判明分)。在学生合格者はみなエクステンションセンターの会計士講座を受講していた。

全体の出願者数は2万926人、合格者は4041人。合格率は19.3%だった。これは「旧第2次試験合格者等の短答式試験みなし合格者」を含む数字で、改正公認会計士法に基づく新試験制度による出願者数は1万8220人、合格者は2695人で合格率は14.8%だった。

2007年度旧司法試験の第二次試験最終合格者は11月8日、法務省司法試験委員会から発表され、本学から卒業生1人が合格した。

全体の受験者数は2万3306人、合格者は248人。合格率は1.06%。9月発表の新司法試験とあわせ、本学の合格者は20人となった。

公認会計士試験合格者の5人の在学生に話を聞いた。

* 在学生の合格者が学んだ「**会計士講座**」は、専門学校と提携し、充実したフォロー体制で合格へ導く専大オリジナルのプログラム。じっくりと学習でき、また同じ目標をもつ仲間の存在が、モチベーションの維持に役立っている。

「地道にコツコツ」のみ

下田 尚史さん

特別な勉強法などありません。地道にコツコツと積み上げていくこと。たゆまぬ努力と精神力の維持。それらに尽きると思います。膨大な量をこなさなければならない受験勉強なので、勉強したことは、完璧に身につけるよう心がけました。投げ出しそうになった時には、「現役合格」を目標にした初心を思い出し、気合を入れました。

12月から監査法人で非常勤として働くことになりました。受験勉強から解放され、ほっとしたのもつかの間、以前と同じような忙しい毎日です。

疑問はその日のうちに解決

佐々木 隆行さん

会計を学ぶからには、最高の資格を目指そうと講座に入りました。普通高出身で簿記や会計の知識が皆無だった分、教わったことをすんなりと吸収できたように思います。

授業での疑問はその日のうちに講師の先生に質問して解決し、苦手科目を作らないような学習計画を立てました。

昨年、短答式に合格していた先輩と問題を出し合ったり、同期と成績を競いあったりと同じ目標を持った周囲に支えられて合格できました。将来は、海外で活躍できる会計士を目指しています。

長い通勤時間も利用して

小野寺 英さん

生田キャンパスで授業を終えた後、専門学校のある神田を往復する毎日でした。効率よく受験勉強に取り組むために2年次の10月までに「計算科目」、それ以降は暗記を必要とする「理論科目」に集中しました。長

い通学時間もテキストを広げ、勉強に利用しました。

受験勉強とともに「授業は休まず」を心がけ、大学で学んだことが受験勉強に生かされたのではないかと
思っています。

念願の「現役合格」を果たし、すぐにゼミの菱山先生やゼミ生がお祝いしてくださって、感激しました。

会計士になったつもりで

原井 常勝さん

体で覚える勉強法に徹しました。特に理論科目はひたすら読んで、書いて、理解することを繰り返す。そう
やって身につけ蓄積したことによって、本番で力が出しきれたと思います。やる気が失せた時は、会計士に
なった状態を思い描き、氣力を充実させました。

少しでも早いうちにと思っていましたので、2回目の挑戦でしかも現役での合格は、大きな喜びです。

これまでずっと勉強してきた韓国語に加え英語も身につけ、将来は国際的な舞台上で仕事をするのが夢で
す。

「人に伝える力」高めた

古渡 裕之さん

高校の情報コースで簿記に興味を持ち、会計の最高の資格を目指すことを決意しました。

昨年短答式に合格しており、今年の論文式試験は、「雪辱を果たす」気持ちで臨みました。目指したのは
「相手に伝わる記述」です。難しい用語を使わなくても、正しく理解して自分の言葉で書けば、評価されるこ
とが経験からわかっていたからです。勉強の合間に後輩と議論や雑談したりしたことも、「伝える」力を高め
ることに役立ちました。

高いモチベーションを保ち続けられたのは、高校のサッカー部で鍛えられた集中力のお陰だと思っていま
す。

07年度「司法試験」「公認会計士試験」合格者

(カッコ内は在学・卒業生学部、所属ゼミ・勉強団体、出身高校)

◆司法試験

原 崇之さん(平10法、神奈川県横浜緑ヶ丘高)

◆公認会計士試験

下田尚史さん(商3、奥西康宏ゼミ、北海道帯広市立帯広南商高)

佐々木隆行さん(商3、計修会、神奈川県座間高)

小野寺 英さん(商3、菱山淳ゼミ、宮城県石巻商高)

原井常勝さん(商4、計修会、東京都東京朝鮮中高級学校)

古渡裕之さん(商4、計修会、茨城県土浦第三高)

飯塚賢司さん(平19商、夷谷廣政ゼミ、栃木県佐野松陽高)

須長 初さん(平18商、埼玉県浦和実業高)

武井 亮さん(平18商、松原成美ゼミ、計修会、静岡県磐田西高)

三宅順子さん(平18商、関根孝ゼミ、東京都三輪田学園高)

真野晃輔さん(平18商、和歌山県和歌山工高)

渡邊浩志さん(平17商、栃木県黒磯高)

小松大輔さん(平17商、佐々木重人ゼミ、東京都専大附属高)

松本忠輔さん(平17商、計修会、千葉県東葛飾高)

筒木 光さん(平16商、矢澤秀雄ゼミ、神奈川県生田東高)

飯田要平さん(平16商、茨城県東洋大附属牛久高)

武田幸治さん(平16商、山形県山形市立商高)

磯崎亜矢子さん(平15経営、馬場杉夫ゼミ、埼玉県松山女子高)

高橋俊雄さん(平15商、鳥羽至英ゼミ、福島県安積高)

山本大輔さん(平15商、小澤康人ゼミ、神奈川県森村学園高)

第35回専フィル定期演奏会

ミューザ川崎に850人

第35回専修大学フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会が12月1日に開催された。会場は昨年に続き川崎市のミューザ川崎シンフォニーホールで、土曜の午後という好時間帯でもあり、850人を超える観客の期待がホールを満たしていた。

プログラムはウエーバー歌劇「オベロン」序曲からシベリウス「カレリア」組曲と続き、メインはブラームスの「交響曲第4番」。彼の苦悩と希望を十分に感じさせる演奏だった。



(写真提供=多摩スタジオ)

最近の専フィルは生き生きとした明るい演奏が多い。いっぽう今回の「交響曲第4番」はストイックな演奏が要求されると思われ、少し心配があったが、ブラームスの光と風を十分に味わうことができた。この光が輝きとなるよう、さらに研さんを積んでほしいと願うのは私だけではないだろう。

指揮の米崎栄和氏は指揮台から転げ落ちんばかりの“熱い指揮”で、学生たちもその勢いに負けなかった。満場の大拍手に包まれた会場でアンコールはビゼー「アルルの女」から「ファランドール」。伸び伸びとした演奏で開放感たっぷりのフィナーレだった。

(K・S)